

# 天文学とプラネタリウム

第71回



今月のお題

## 天文活動の貨幣価値

■天プラtwitter (@tenpla) 好評配信中です。



ちょっとデリケートなお金の話。  
天体観望会、いくらまでならお金払っても参加しますか？



www.tenpla.net

高梨直紘 (東京大学)  
平松正顕 (台湾 国立清華大学)

### 観望会、ブライズレス？

天プラでは、これまでさまざまな場所で天体観望会を行ってきました。本誌をお読みの皆さんの中にも、ご近所の子どもたち向けや一般向けに同様の活動をされている方もいらっしゃると思います。街中でこのような活動をやっていると、道行く人に「いくらで見せてもらえるの？」と声をかけられ、「無料ですよ」と答えると「おお、じゃあ見せて見せて」という展開になることもあります。いくらまでだったら望遠鏡で星を見るために出してもいいと思われているのでしょうか？

世の中の観望会の多くは無料で開催されていると思いますが、会場への交通費や機材のメンテナンスなど、観望会運営にはお金がかかる場合もあります。このお金は基本的には個人/グループの持ち出しでまかなうことになりませんが、例えば寄付などを集めることができれば、よりよい機材や人的体制で観望会を行うことができ、見に来てくださる方の満足度も上がるといったものです。

そんなことを考えていたときに、テレビであるウェブサイトが紹介されていました。kickstarter.comというサイトで、音楽家や芸術家、発明家などが自分の企画をサイトに登録し、それに賛同する閲覧者から寄付を受けるといったものです。寄付を受けたい人も寄付をしてみたい人もこのサイトにアクセスすればよいわけですから、個々の企画で独自に告知するよりはるかに効率的に寄付を集めることができるわけです。実際、この仕組みで寄付を集めた多くの企画が既に実現されているようです。残念ながら日本からは企画登録できないのですが、日本にも似たような仕組みはあるのでしょうか？何かご存知でしたらぜひ教えてください。

実は、日本の宇宙開発研究を担うJAXAも「この活動にいくらなら払ってもよいか」という形式のアンケート調査でその活動について評価を行っていました。2005年のアンケートでは、惑星探査や衛星での天文観測に払ってもよい額の平均は一人1年に547円。一方で天気予報の向上等には1363円。星ナビ読者のみなさんだったら前者にはもう少し払ってもよいと考える方も多



街角で天体観望会を開いている「天の川急便」の銀座での活動の様子。「星を見る」ということは、帰宅の足を止めていただける程度の訴求力はあるようです。

いかもかもしれませんね。

貨幣価値だけで考えるというのは、物事の多様な面を見落とす可能性があるため注意が必要です。が、時には有効であることも確か。活動をよりよくしていくためのひとつの方法として考えてみるのもいいかもしれません。